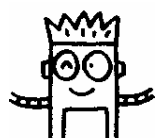


たいせいほうかん 大政奉還の後、 とくがわよしのぶ 徳川慶喜はどうなったの



かぞく 華族になり、かり・写真などの趣味を楽しみながら、
大正時代初期まで、安楽に過ごしたんだよ。

1867年10月、15代将軍慶喜は、大政奉還を朝廷に申し出ました。しかし、これは、倒幕派（幕府をたおそうと考えている人たち）のたくらみをくじくためであって、新しくつくられる政府は、慶喜が、議会や内閣の上に立つ「大君」として権力をにぎり、天皇はただのかざりとする形にしたい、と考えていたようです。そのため、慶喜は大阪城にうつって、旧幕府軍を集め、薩摩藩（鹿児島県）と長州藩（山口県）を中心とする新政府軍をたおすために、京都に攻め寄せました。しかし、翌年1月の鳥羽・伏見の戦いで、旧幕府軍が敗れたため、江戸に逃げ帰りました。

きんしんの後、趣味を楽しみながらくらし

江戸に帰った慶喜は、2月に、朝廷の命令におとなしく従います、という態度を示すため、江戸城を出て、上野の寛永寺にこもりました。この態度や、イギリス公使パークスの意見などによって、新政府による慶喜の処分が軽くなり、「徳川」の苗字を残すことが認められ、水戸できんしんすることになりました。7月には駿府（静岡市）にうつり、1869年9月にきんしんを解かれました。その後は静岡市で、かり・謡・写真などの趣味を楽しみながら、くらししました。

めいじいしん 明治維新に功績があったとして、華族になった

1897年11月に東京にうつった慶喜は、翌年3月に皇居に行き、初めて天皇・皇后に会いました。この会見によって、自分から天下をうばった天皇に対する、心のわだかまりがやわらいだようで、その後は華族になり、公爵の位や勲章を受け、「明治維新に功績があった人」という名誉をあたえられました。そして、大正時代初期の1913年11月22日に、77歳で亡くなりました。